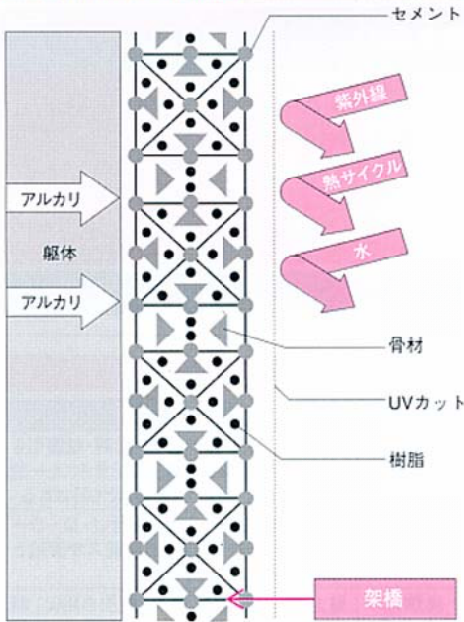


図 FMXの塗膜構成



セメントと無機骨材が主原料のため、セメント系下地では一体となって強度を発揮し、セメント・樹脂で架橋された塗膜は長期の耐久性を保つ

あるので避けるべきである。施工性については、手慣れた左官職人であれば、おむね問題はない。マチックコートの場合、吹付け用としてマチックコートSPが用意されている。下吹き材、上吹き材に加えて専用骨材大小の組合せとなる。吹付け工法の場合、骨材は現場調査となるので注意したい。吹付け工法の利点は、鏝で施工しづらい役物やR面などに均一に塗布できることであるが、反面、左官工法に比べて表情に乏しいきらいがあるので、施工個所により、均一な仕上げを求められる場合は吹付け工法を、より意匠性を求める場合は左官工法を、使い分けるのが理想的である。

(2)コストについて

アクリル樹脂系塗材には、ローコスト、耐候性、意匠性等多くのものが求められるが、マチックコ

■ベルアート

外装湿式仕上げ材ではNo.1のシ配合が必要である。

また、フッコーでは、今後、有機系と無機系(セメント)のハイブリッド塗材「FMX」を主力製品として打ち出していくという(写真5)。これは、有機系の塗膜が劣化しても、セメントの強度により骨材などの剥落を防ぐことができるという(図)。セメント特有の白華対策としては、その原因となるカルシウム分が塗膜の表面に出ないような組成となっている。製品自体は粉体のため現場での配合が必要である。

(3)今後の展開

また、フッコーでは、今後、有機系と無機系(セメント)のハイブリッド塗材「FMX」を主力製品として打ち出していくという(写真5)。これは、有機系の塗膜が劣化しても、セメントの強度により骨材などの剥落を防ぐことができるという(図)。セメント特有の白華対策としては、その原因となるカルシウム分が塗膜の表面に出ないような組成となっている。製品自体は粉体のため現場での配合が必要である。

エアを誇るエスケー化研により開発されたのがベルアートである。意匠性のある仕上げ材もこれまでに多数揃えていた同社であるが、吹付け、ローラーによる施工が圧倒的に多かった。ベルアートはこれまでの吹付け、ローラーのノウハウにプラスして鏝仕上げも可能な材料である(写真6・8)。

同等品と差別化された点としては、永年の外装材の実績により調色の許容範囲が広く納期の対応が素早いことであろう。また塗替え用のトップコートや塗膜保護のためのクリア材も数多く揃う。さらにアクリル樹脂系のベルアートに加え、弾性セラミックシリコン系樹脂を成分としたベルアートSiを開発し、従来のベルアートの2倍近い耐用年数を目指している。内装用としては、VOCを1%未満に抑えたベルアートINという製品がある。

(1)施工方法について

ベルアート主材に、パターンにより専用骨材を現場調査するた



写真6 ベルアート「フェザー仕上げ」



写真8 ベルアート「砂岩2色仕上げ」



写真7 ベルアート「スクロール」仕上げ

(3)今後の展開

ベルアートは戸建住宅を中心に使われていることから、今後はリフォームへの対応として工法や製品の開発に力を入れていくということだ。

(2)コストについて

コスト的にはベルアートで上代2千500〜4千500円/㎡、ベルアートSiで2千800〜4千900円/㎡と他社より若干のコストダウンを実現している。



写真 石やタイルなど異素材との相性もよい

ここで、そのほかの水系アクリル系弾性塗材として「スタックコラースト」(ブライトン)を紹介する(写真)。この製品は、天然大理石の砂を使用し、土壁の風合いを表現でき、同時に水溶性アクリルによってクラック対策を施す内外装仕上げ材だ。通気性も高い。

色は25色のバステルカラーと5色のサウスウエストカラーがあり、特注色にも対応する。骨材の種類は、サンド(通常タイプ)、ロール(細かい砂に大きい粒の砂が混ざったもの)、ファイン(細かい)の3タイプのほか、新しくスサ入りなどの3種類が加わる。現場で主材に混ぜ合わせる。また、主材は白色で、色を付けるには指定のカラーバックを現場で調合するため、残った材料が無駄にならない(カラーバックは別売りする)。

大理石粉末を使ったアクリル系弾性塗材

編集部

※3 エスケー化研問合せ先: TEL072-621-7733 ※4 ブライトン問合せ先: TEL03-3491-2861